

浄土へ至らず

仲井和奏

さようなら またあした

小さな嘘がついてくる

一步進めば一步と少し ついてくる

嘘を許していた

わたしが嘘だと知っていた

幼い過去

本当のことなんて わたしが生まれる前に  
ついえてしまったのだと

ついぞ知り得なかつた

そのきれいな刃物 傷をつけていくこと

どれもきたなかつた

目を覆つたまま逃げた

守りたかつた

誰も守れなかつた あたたかいひとりぼっち

愚者  
り

土砂  
り

音が隠していく

どこまでも暗い景色が映る波

底へ身を委ねた

心臓を碎く痛みも

脳を撫でる苦しみもない

ああ 救いだ

その夜は 全てが見えた

無数の指がわたしをくつた

温い絹が

やがて包んだあなたを運んでゆく

見知らぬわたしも手招いて

極彩色を連れていった

やがて包んだあなたを運んでゆく

見知らぬわたしも手招いて

口先で何も触れなくていい

指先はわたしのためだけに

だれかの刃物も

もうだれもわたしをわからなくていい

わたしもあなたをわからなくていい

そんな海が夢だつた もうどこにもいない

目から滲んだいのちのと混ざり合っていく

わたしたちがいるばかり

寒い肌 が もう 不安なの！

肺を満たした苦しさが砂に溶けてすぐえない  
服についた砂だけが次のわたしたちにとけていく

ありがとう、おはよう。